



2021年6月10日発行
 特定非営利活動法人
 盛岡YMCA
 〒020-0021
 盛岡市中央通 3-7-18
 ラ・ベルヴィ中央 1F
 Tel 019-623-1575
 Fax 019-623-1579
 www.moriokaymca.org
 発行人 / 濱塚 有史
 編集 / 本部事務局

YMCA News



「愛は多くの罪を覆う」



愛の姿は、さまざまな形をとります。ある時は、助けであり、応援であり、また赦しであります。「愛は多くの罪を覆う」という聖書の言葉は、特別に心に留まります。単に「罪の赦し」ではありません。愛の多面性を現わしております。

『レ・ミゼラブル』の中で、ジャン・バルジャンは、銀の燭台を盗みます。翌朝、彼は警部のシャーベルに捕まって、教会に連れて来られます。その時、ミリエル神父は、「これは私が彼にあげたのです。彼が盗んだのはありません」と、彼の罪を否定します。ミリエル神父はジャン・バルジャンの罪を覆ったのです。「罪を覆うこと」で、罪は成立しなかったのです。この愛によって、ジャン・バルジャンは、新しく生きる力を得たのでした。彼は立ち直りました。

使徒言行録7章で、ステファノは石で殺されるさ中で、ひざまずいて「主よ、この罪を彼らに負わせないでください」と大声で祈りました。

た。彼は、ユダヤ人の罪を覆ったのです。彼は被害者に決してなりません。恨みを抱きませんでした。心は平安でした。彼がユダヤの人々の罪を覆ったことにより、ユダヤ人は、加害者にならなかったのです。被害者にならないことは、加害者を生み出さないことです。

YMCA活動でも、私たちはお互いに足りないことが多々あります。それを咎めることよりも、お互いに欠点を補い、愛でもって覆い償うことによって、活動と仲間に平安がもたらせるでしょう。

「何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい。」

愛は多くの罪を覆うからです」

ペテロの手紙 一 4章8節

盛岡YMCA理事 角谷晋次

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



リーダー歓迎会

おむすびから、大学の新生向けに行った「おいでよ春のワイ祭り」の活動について報告いたします!4月29日、5月1日の2日間、大学の新生を対象に、盛岡市内でウォークラリー形式のプログラムを行いました。2日間を通じて40名を超える新生が参加してくれて、リーダーたちが考えたプログラムを楽しんでいました。

ウォークラリーでは、リーダーと新生で5名ずつのグループになり、グループごとに盛岡市内を歩き、「違う種類の花を5種類探す!」「テーマに沿った写真を撮る!」といったミッションや、マップのヒントを見ながら、各スポットにいる仮装したリーダーを探して会いに行くというミッションを行いました。人気のキャラクターやサラリーマン、買い物に行くお母さん、動物などに扮したリーダーたちが、ゴールまでの道の各スポットに登場し、各グループにクイズを出したり、ミッションを出したりしました。ミッションをクリアした後は、「グー」「チョキ」「パー」の書かれたカードをゲットすることができ、そのカードを

使ってじゃんけん対決を行いました。最初は緊張していた新生たちも、グループでの関わりを通じて緊張が解け、元気に楽しむ様子が見られました。また、違う大学の新生同士でも仲が深まっているようでした。

2日間とも雨の中の開催となってしまいましたが、多くの新生とリーダー達が交流することが出来ました。また、新生も実際に野外活動を体験して、盛岡YMCAでの活動に興味を持つきっかけとなったと思います。新生の中には、もうすでに通常活動等に参加している人たちも多くいます。これからも、リーダー同士で交流を図りながら、子ども達との活動をより良くしていけるよう努めていきたいです。

斎藤七穂(おむすびリーダー)



5月サンデースクール ～絵はがきづくり～



5月9日(日)、盛岡市仁王地区活動センターを会場に、今年度2回目のサンデースクールを行いました。今回は、発泡スチロールでハンコを作り、それを使って自由に思い思いの絵はがきを作るという内容でした。この日は母の日ということもあり、「お母さん、いつもありがとう」といった言葉を絵はがきに書いている子もいました。また、持参したシールをたくさん貼ってとても可愛いものを作る子や、自分が気に入る一枚を完成させようと必死に試行錯誤している子など、一人一人の個性が輝いているように感じました。

今回のサンデースクールには、初めて来てくれる子も多く、始めは緊張している様子も所々見受けられましたが、色んなリーダーとの関わりを通じて、絵はがきづくりを楽しめたようでした。サンデー

スクールでは、他のYMCAの活動に比べ、子どもとリーダーとが一对一で遊んだり、話したりする時間が長いように感じています。私自身も、普段そこまでじっくり話したことがない子と話してみると、その子の知らなかった面がたくさん出てきて、もっとその子のことを知りたいなという気持ちになります。だからこそ、およそ2時間半という活動の時間であっても、また来たいと言ってもらえるような関係性を築けるのではないかと思います。私達、リーダーもさらに子どもたちが自分を出して、全力で楽しんでもらえるよう今後も努めていきたいです。

小河原悠加(ぶんちんリーダー)



ユースチャレンジ ～活動報告～



今回私たちは、『全国YMCAユースチャレンジ』というプログラムに参加しました。全国YMCAユースチャレンジとは、主体的に、社会的や地域に貢献したいと願う、私たちのようなユース世代(18歳～35歳)の想いを実現する手助けのために、日本YMCA同盟ユース委員会が構想され、サポートされるものです。

私たちは、「前潟ファームの拡張と食育」と題して、これまで目の前の畑で子ども達と一緒にやってきた野菜作りを、これまで以上に畑を大きくすることで、育てる野菜を増やし、子どもたちが、より食べ物の大切さについて考えるきっかけとなればという願いを込め、ユースチャレンジに応募しました。前潟ファームの拡張は、5月3日(月)にスタッフ、大学生リーダー、もりおかワイズメンズクラブの方々の力をお借りし、実施しました。実施当日は、最初こそ小雨の状態でしたが、作業していく中で雨も止み、作業終盤には天気もすっかりと良くなりました。

前日の雨で土も湿り、固くなった状況で新しい畑区域の開拓などを行いました。新たに開拓していった畑区域からは、大きな石がゴロゴロと出てくるなど、難航する場面もありましたが、石の大きさ比べやどんどん畑らしくなる区画を見て、とても楽しく活動を行うことができました。今後、新しく開拓し、拡張した畑で昨年よりも多くの野菜を子どもたちと育て、食べ物の大切さを考えていきたいと思えます。

YMCA前潟センタースタッフ 大久保里美



サマーキャンプ 今年こそ！！



「今日が終われば夏休み！」小学生だった私は、夏休み前、最後の登校日から帰宅。大量に出された宿題をテーブルに並べ、母と終わらせる計画を細かく立てた。そして、そこにYMCAのキャンプと家族キャンプの計画を盛り込み、期待を膨らませていた。これが私の夏休みの始まりだった。「キャンプ」という夏休みの大イベントのおかげで、当初立てていた宿題計画を早めに終わらせていたこともあった。

今でも、よくキャンプへ行く。計画を立てる楽しさ、チャレンジしてみる好奇心は、この頃の経験が影響しているように思う。そんな夏の大イベントが、昨年はコロナウイルスの影響により中止となった。毎年YMCAのキャンプで会っていた子どもたちは、どんな夏を過ごしたのだろうか、元気になっているのだろうかと考えていた。そんな時、そもそもなぜ私たちはキャンプをするのかと、ふと疑問に思った。自然体験ができるから、友達を作りたいから等、その答えは様々だ。では、YMCAのキャンプでいえば何だろうか。きっとそれは「成長」ではないかと思った。自然の中を走り回り、初めて会う子と仲良くなり、そうしたキャンプ生活は、個人の「成長」につながっているように思う。そしてそれは、すぐに実感できることもあれば、時間が経ってから実感することもある。

今年のサマーキャンプは、そんなキャンプにしていきたい。リーダーと子どもたちが互いに成長し合える仲間として、キャンプ生活を共にし、その経験が未来の自分たちにつながっていくような、そんなキャンプにしていきたいと思う。



サマーキャンプディレクター
武田悠

盛岡 YMCA 新型コロナウイルス対策



盛岡市内及び岩手県内において、連日新型コロナウイルス感染者の報告がされ、何時どこで誰が感染してもおかしくない状況となっています。盛岡YMCAでは、①感染者を出さない②感染を広めない③嫌悪・差別・偏見をしないという3点を重点として、以下の通り対策を講じています。

「①感染者を出さない」

(1)YMCAプログラムでの手指消毒、(2)屋内での活動時(水泳・体育教室を除く)のマスク着用、(3)室内の換気及び施設消毒の徹底、(4)職員の出勤前及びボランティアリーダーの活動参加前の検温、(5)送迎開始前と終了後の送迎車両の消毒、(6)食事の際の会話を控えるといった措置を講じています。(3)室内の換気は1時間に1度10分程度、施設消毒は午前午後最低各1度行うことを義務付けています。(4)検温はそれぞれ検温記録を取り、書面及びクラウド上での管理を行っています。これらの対策は、公衆衛生医師の岩室紳也氏を講師とした、日本YMCA同盟主催新型コロナウイルス感染症対策の研修を受けて、設定をしています。

「②感染を広めない」

感染者が出た際の対応は、保健所及び所轄官庁の指示に従うこととしています。また、PCR検査を受ける職員は速やかに対策本部へ報告することを義務付けており、検査結果が出るまでは出勤停止としています。さらに、陽性反応が出た際に、行動履歴の提出を求められることから、PCR検査を受ける職員は検査結果が出る前に、予め行動履歴を作成・提出することとしており、感染発生時の対応についてフローチャートにまとめ、全職員で対応の共有を図っています。

「③嫌悪・差別・偏見をしない」

昨年度盛岡市内及び近郊市町村の小中学校を中心として、日本赤十字社と協働で「新型コロナウイルス3つの顔」という冊子を作成・配布し、新型コロナウイルスに対する正しい知識の啓発と、感染してしまった方に対する差別的な言動に同調しないことを強く訴えています。コロナウイルス感染者が報告されると、感染者の特定、感染者が出た会社や学校の特定をしまいがちですが、そのような行為を避け、お互いを温かく支えあうことを大切にしています。

終わりに、各プログラムに参加されている方や家族が罹患された際、職場や学校で罹患者が報告された際、本人若しくは家族が濃厚接触者及びPCR検査を受ける範囲に特定された際には、速やかに以下対策本部までご連絡いただきますようお願いいたします。

【対策本部】

小川(080-3094-5468)、浅沼(080-3094-5502)

「出会うこと」「気づくこと」

3月号に掲載された卒業するリーダーたちのメッセージを読み返してみた。「出会いの中で一生モノの気づきを得ることができた」「つながりの中でほんの少し勇気を持っている自分に気づけた」「周りの人々とつながり、共に成長していくことがいかに価値あることであるかに気づいた」それぞれが4年間のボランティア活動を振り返って書いてくれている。共通した思いは、「出会いと気づき」の大切さだ。

「YMCAは出会いと気づきの場である」僕が入職以来、諸先輩から言われ続けてきた言葉だが具体的なイメージは湧いてこなかった。しかし、逆に若いリーダーたちから発信されると妙に気になってくる。「気づき」とはいったい何なのだろう? 「出会い(つながる)」とはどういうことなのだろうか?

リーダーたちの4年間はまさに山あり谷ありだ。YMCAから離れたたり、戻ったり、落ち込んでいるなどと思ったら元気になったり、そうした彼らの姿を見ているとまさに自分と格闘している様子がよくわかる。彼らの多くは、多忙な高校生活を乗り越えて大学に入学してきた。勉強と部活動の両立はさることながら、SNSを通して彼らを取り込まなければならぬ情報は僕らの時代とは比べものにならない。そんな、彼らの前に出現したラスボスが「自分」だったのではないだろうか。

自分に出会うことをある意味避けてきた青年たちが、大学入学後、様々な経験を通して否が応でも自分に向き合わざるを得なくなった。そのような中で、仲間やYに集う人々との出会いを通して、自分に対して正面から向き合うようになった。そして、見つけた自分がどんな自分であれ、受け入れて付き合っていこうとする覚悟ができたのではないだろうか。卒業した彼らの顔を思い出すと、そんな風にも思えてきた。

20代の若者たちに刺激されて、ほんの少し勇気を出して、自分に向き合ってみようかな? もしかしたら、還暦を迎えた僕でも「一生モノの気づきを得る」ことができるかもしれない。

「求めない。そうすれば、与えられる。

探さない。そうすれば、見つかる。

叩きなさい。そうすれば、開かれる。」

(マタイによる福音書7章7節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

※互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと

(2021年5月28日現在)敬称略

●維持会員

山本常緒、古澤伸、長岡正彦、吉崎陽、光永尚生、上條直美

最新情報はこちらでチェックできます! 「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ  : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook  : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>

「くれよんのくろくん」

くれよんのくろくん
なかや みわ 作・絵 童心社



皆さんは、クレヨンで遊んだことはありますか? 私は幼いころ、手を汚しながらクレヨンがボロボロになるまで絵を描いた記憶があります。今回は個性豊かなクレヨンたちのお話を紹介したいと思います。

新品のクレヨンたちは、使われるのを今か今かと待っています。我慢できなくなったきいろくんが、ケースから飛び出し歩き始めると、大きな画用紙を見つけました。黄色いちょうちょを描くと、書き心地がとてもよかったので、他のクレヨンたちも呼んでくることに。みんなで少しずつ描いていき、一枚の絵が完成しました。

しかし、描き足りないクレヨンたちは、我先にと空いているところに描いていき、スペースをめぐってけんかになっていきます。黒いクレヨンのくろくんがやってきて、「ぼくはどこをかけばいいの?」と問いかけますが、黒く塗りつぶされてはたまらんと仲間外れにされてしまいます。落ち込んでいるところに、シャープペンのお兄さんが「げんきだせよ」となぐさめに来てくれました。そして、くろくに提案をします。それを聞いたくろくんはびっくり。

でも、シャープペンのお兄さんを信じて思い切ってみんなの描いた絵をまっくろにしました。真っ黒になった画用紙をシャープペンのお兄さんが削っていくと...

この絵本には、どんな人でもいいところがあって、みんな活躍できる機会があるというメッセージが込められていて、とても心温まるお話になっています。シリーズ化もされているので、ぜひ手に取ってみてくださいね。

YMCA中央センタースタッフ 茶畑大地

表紙の写真から



盛岡YMCAサッカークラブの代表チーム「ベスト・キッズ」。YMCAの伝えたい価値をゲームを通して伝えてくれています。